

パネル討論 広がる活動

司会 ます皆さんの活... 動概要について聞いた... の口コミ情報を流す。い... しても、どこでも、誰で... 体験クルーシングとして... 和崎 二十一世紀の井... も」というインフラを基... 地に「今だけ、こだけ... た。地元でヨット、クル... ーサーを持っている人々... を総動員し、陸上では中... 海の歴史がわかるような... 展示物を設けた。今年... 高橋 二〇〇〇年、鳥... ボランティア百五十人、... お客さん二百五十人が... 加した。... 次にはアジア太平洋環... 境



学 大 塾 義 塾 大 学 院 准 教 授
慶 應 義 塾 大 学 政 策 学 部 慶 應 義 塾 大 学 政 策 学 部
飯 盛 義 徳 氏
(司会)

で、みんな一人暮らし... 地域に愛着を持ちなが... 暮らしてもらうため、ア... ルバイトを通じ地域と触... れ合うきっかけをつくら... うと活動を始めた。

鳥取県議団も自民党、... 共産党でグループを組ん... で掃除している。今年六... 月の一斉清掃には鳥取、... 島根両県知事ら八千人が... 集まりゴミ掃除をした。... 現在は中海がきれいにな... ックス解消大作戦」。大... 学生が、パソコンが苦手... した後、どう活用する

和崎氏 地デジで口コミ情報

虎岩氏 大学生が住民と交流

ードルを高くしつつ、い... ろいろな機能をどんどん... 追加し、新しいことがで... けるようにした。大切な... のは現実の活動とどうま... つながることだ。

現在プロードバンド... (高速大容量) がつなが... っている地上波デジタル... のテレビを活用し、地域... の口コミ情報を出力する... 試みを今年度と来年度で... 実用化する予定だ。カー... テレビや住民が動き出... になると考えたが、当時... は水質が汚れていた。大... た。三年前には「アゲア... トプログラム」と題し、... と話し合っている。

虎岩 特定非営利活動... 法人(NPO法人)TR... ールに写真を添付して送... れるようになる。さら... 其の後のつながりをつく... りたいと思い、SNSを... 立ち上げた。SNSを日... ごと見ていると最初に... 会った関係がずっと続い... ているようだ。

関根 全員に共通して... いるのは地域や周りの人... たちに対する愛が強いこ... とだ。「いつでも、どこ... でも、誰でも」ではなく... 「今だけ、こだけ、私... だけ」というネットワー... クが二十一世紀のユビキ... タス情報社会のあり方で... がねらいだ。

大賞 地域情報連携「OpenSNP」



インフォーム社長
和崎 宏氏

大賞 インターネット協会賞 パソコン教え世代間交流



TRYWARP 代表理事
虎岩 雅明氏

「今だけ、こだけ、私... だけ」というネットワー... クが二十一世紀のユビキ... タス情報社会のあり方で... がねらいだ。

さらに頻りに会うように... なっている。「つなぐ」... を支える三つのUがあ... る。まず「ユニバーサル」... 次はユーザーの視点で考... える「ユーザーオリエン... テッド」、そして「ユニ... ーク」。これには地域の... 活力なども含まれる。町... や村には歴史や文化など... 磨けば光る宝がたくさん... あり、もって世の中に出... していきけるはずだ。

高橋 環境問題につい... て何かをしたとき、最初... は環境問題に熱心な人... だけが集まる。そこに福祉... やスポーツなどの団体を... いかにも集めるか、そうい... う「つなぎ」が輪を大き... くする。次の回には逆に... 環境問題の人たちが文化... の人たちがバックアップ... するという相互の助け合... いが、町のチームワーク... を強める。

和崎 舫(ちやい)な... ど伝統的日本型地域ネッ... トワークはウェブ2.0... やオープンソース、SN... Sなど今時の概念とよく... 似ている。テクノロジー... に地域ネットワークの要... 素を組み込めば面白いプ... ログラムができるのでは... ないか。

私たちが開発したOP... enSNPは地域の顔が... 見える場所であって、使... るようにした。自分たち... でつくったから自由に機... 能を追加したり変えたり... できる。ユーザーが単... りの利用者ではなく開発... 側に入ってくる。来春には... オープンソース化される... 予定だ。

地域間ネットワークも... 重要だ。米子市と周辺二... 市六町一村の人が交流す... るセンターを作り、米子... 市から観光バスに乗って... 田舎のおいしいものを食... べに行く散策ツアーを始... めた。地域の人たちが交... 流を起すことで農村村... と都市部の交流を図るの... がねらいだ。

地域でSNS活用

日本経済新聞社は十一月七日、日経ホール(東京・千代田)で「日経地域情報化大賞2008」の表彰式と記念シンポジウムを開いた。基調講演で東京都三鷹市の清原慶子市長はICT(情報通信技

術)の街づくりへの活用の意義を訴えた。パネル討論では地域と人の輪をつなげるICTの可能性について実例を紹介した。司会は慶応義塾大学の飯盛義徳准教授。敬称略

パネル討論 協働生まれる

虎岩 街で「こんにち」などを配り、全く関係ない土でもお互いに知らなくは」と言える関係になる。かっただ住民が教室に来る。つた人が出会う。

こと以上にエネルギーを ようにした。そうすれば この関係を基にSNS 染み込んでいる。「ちょっととで次に誰かに聞かれたとき」「こんな風にする

た。大学生には単なるアルバイトとしてやってもらう。親身にパソコンを教えていけば年配の人から「こんにちば」と声をかけてくる。それがうれしいのだ。

新聞の折込みチラシ



コーディネーター 関根 千佳氏 (コメンテーター)

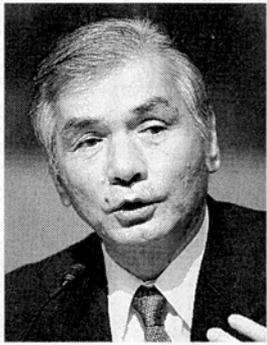
なアクションをつくりだす。そこに多様性が生まれ、循環しながら協働が生まれる。

和崎 同感だ。「なぜ人が良い関係で共鳴したりするようになるかは、私たちがやるべきことではないか」といって、私たちがやるべきことは、私たちがやるべきことではないか。いい感じが出て、みんなに頼心ができ面白くなる。頼心ができ面白くなる。頼心ができ面白くなる。

関根氏 現実に出会うこと大事 高橋氏 高齢者の知識生かす

ているポイントは二つ。というのがとても大事。一つは「出会い系」でなく「出会った系」。ネット上で人探しをするのではなく、温泉に入る、誰かと会おう。それを別の誰かに伝えることは、これからのネットワーク市民の権利であり義務ではないか。SNSの

いいと教えてもらった」といって、私たちがやるべきことは、私たちがやるべきことではないか。いい感じが出て、みんなに頼心ができ面白くなる。頼心ができ面白くなる。頼心ができ面白くなる。



中海テレビ放送専務 高橋 孝之氏

CANフォーラム賞 中海再生プロジェクト

可視化され、人の連携が進んでいけば信頼関係がもてる。距離感を保ちつつも、誰かがボソッとつぶやいてみる。それがいい。距離感を保ちつつも、誰かがボソッとつぶやいてみる。それがいい。距離感を保ちつつも、誰かがボソッとつぶやいてみる。それがいい。

日経地域情報化大賞・記念シンポジウム特集

討論する(右から)コーディネイト・関根、TRY WARP・虎岩、中海テレビ放送・高橋、インフォミーム・和崎の各氏。司会の慶応大の飯盛氏(11月7日、東京・大手町の日経ホール)

審査委員長 国領 二郎氏

地域間の連携 大きなうねりに

講評

女性の就労など非常に重要なテーマに解決策を提示し実績を上げている。行政の取り組みが行政の中だけに閉じず、官民が連携して大きな広がりになっている。大学にいる人間としては、大学や大學生が参加している取り組みが受賞したことも非常にうれしい。

地域情報化が非常に深まり、広がりを見せていることが応募の中から分かった。今年はコンセプトの良さだけでなく、実績をどのくらい上げているかも見る、ややハードルの高い審査になった。大賞のプロジェクトは、単なる一地域を越えて地域間で連携を進める。本格的なものだ。地域情報化が大きいうねりになっていく期待を持たせる。

ほかの賞も医療、環境、女性の就労など非常に重要なテーマに解決策を提示し実績を上げている。行政の取り組みが行政の中だけに閉じず、官民が連携して大きな広がりになっている。大学にいる人間としては、大学や大學生が参加している取り組みが受賞したことも非常にうれしい。

今年の特徴としては農業、水産関係の応募の中に非常にいいものがあった。受賞は一つだったが、第一次産業の活性化に正面から取り組み、実績を上げている。地域活性化の大きな文脈の中で、一次産業の再生を通じ、日本社会の立ち直りを進めたいという思いが表れているのではないか。

世界経済は混乱している。こういうときこそ地域の力、地域の足腰が試される。受賞されなかった中にも、情熱を込めた取り組みがたくさんあったことを報告したい。